



長く教員生活を支える教育学部へ

教育学部長 高瀬 雅弘

同窓会の皆様には、平素より教育学部の教育研究活動へのご理解とご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

2024年の教育学部・教職大学院にとつての大きな出来事は、10月24日に開設式・記念シンポジウムを挙行政した、独立法人教職員支援機構(NIFS) 弘前大学センターの開設です。2022年の中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」に示された「教師の学びの転換」を具現化するものとして、東北・北海道地区で唯一の地域センターへの期待は大きく、教職大学院が実施する各種教員研修は「NIFS」の名を冠することとなりました。

いま、教員養成は学部4年間の枠組みには収まらないものとなつていきます。高校生を対象とした高大接続事業への取り組みとして、教育学部では青森市・八戸市・弘前市において「教員を目指す高校生のためのセミナー」を開催しています。実際にセミナー受講者のなかから多くの高校生が教育学部を志願してくださり、確かな手応

えを感じているところです。

学部教育では、この4月に教職支援センターが発足し、他学部も含めた全学的な教職課程の体制が整いました。それにもない、教職支援室の利用も他学部生に開かれるようになりました。

教職大学院をめぐることは、「教員になつた者に対する奨学金の返還免除制度」の導入がエポックメイキングな出来事として銘記されます。今年度の教職大学院の入試では、教育学部出身者だけでなく、他学部や他大学からの志願者も多くありました。こうした動きは、中央教育審議会大学分科会・高等教育の在り方に関する特別部会答申「急速な少子化

進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方について」に示された今後の国立大学の「地域のけん引役としての機能強化」という方向性とも合致しています。そして採用後には上述の教職大学院・NIFS弘前大学センターによるキャリアアステージに応じた研修が「教師としての学び」を支えていくこととなります。

Department of Education alumni association

あすなろ

2024 No.46

発行 弘前大学教育学部同窓会 葛西 恒雄

所在地 青森県弘前市文京町1 TEL 0172(39)3314 (学部)



が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方について」に示された今後の国立大学の「地域のけん引役としての機能強化」という方向性とも合致しています。そして採用後には上述の教職大学院・NIFS弘前大学センターによるキャリアアステージに応じた研修が「教師としての学び」を支えていくこととなります。



カミングアウトから『おたのしみタイム』のさっちゃんとして

同窓会副会長 前田 幸子

として生きる」ことまでをカバーし、長期間にわたつてのサポートを行うことが教育学部の使命です。その役割を果たしていくうえで重要になるのが世代間のつながりです。同窓会の皆様には、その一翼を担っていただいています。このことに心より感謝いたしますとともに、引き続きのご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

私は「旧中学校課程・美術科」を辛うじて卒業することができた。しかし、あの頃は卒業できただけで喜んではいられない「教職難民」「教職氷河期」と言われる実在に辛い時代であった。志高く希望に燃えて入学したはずなのに、四年後に、まさかこんな時代になるとは想像もできなかった。学生たち自ら奔走する職探しとなった。遠くは関東方面の教職を探し、弘前を離れた仲間のなんと多かったことか。結果、有望な多くの人材が流出してしまった。大学で学んだことは多かったが、『社会や現場で役立つこと』は残念ながら少なかつた。それは、自分が生かし切れなかつたのか、当時の大学の有り様か現場からかけ離れ、役立つこととして生かし切れなかつたのか、今となっては知るよしもない。ただ、学んだことの一つに、心柱のようにスツクと立っていることがある。それは、入学間もない「仏

像」の講義で『大日如来』の印の結び方の『智拳印』を学んだことだ。程なく仏像を見せてもらおう機会があり、見た瞬間「あつ、智拳印だ」と思わず声を上げてしまった。案内人の「智拳印を御存じでしたか。」の一言で、「うつろに聞いたあの講義が、ここで生きるとは…」と、感動を覚えたものだった。いつ、どこで、どのように生きるかわからないからこそ、『学び』は奥深く、実に楽しいものなのだ。こんなささやかな『学び』を携え、採用試験を何とか通過し、遠く弘前を離れ、教員生活のスタートを切った。そして、お決まりの海・山・谷あり、天国・地獄ありの三十八年間、中学校教員という井の中の蛙状態で過ごしたのだ。今考えると世間知らずの先生であった。退職後は縁あって児童養護施設を経て、障がいのある人の施設で、一緒に絵を描いたり、物作り等の『おたのしみタイム』のさっちゃん

んとして、今もボランティアを続けさせてもらっている。ここでは、今までの当たり前をすべて覆された。話すこと、見ること、聞くこと、絵を描くこと、物を作ること等、スタッフの方が共に協力して初めて実現や完成の喜びがある。これまでの教職生活での知識や経験の薄さ軽さ浅さに愕然とし、何もかも儂く露と消えた。この状況に焦りを感じ、自分自身の意識改革や人間形成の立て直しに、遅滞きながら取り掛かることとなった。この熱い経験から、卒業生として思うことがある。それは、学部長さんがおっしゃっている「先生に『なる』ことの先を見通して、教員としての『あり続ける』生きることこそが目標です。」まさしくこのことだとうれしくなつた。「なる」ことしか考えなかつた時代を生きてきた自分にとつて、目から鱗であった。教員を志す人は、『なる』ことの先を見通して、ぜひ自分の専攻のみならず、他の多くの分野にも視野を広げてほしい。そのためにも、大学としても、四年間だから無理なのではなく、四年間あるのだからとポジティブ志向での研修プログラムを実現してほしい。『見て学ぶ』という学びの基本とも言える『見学』を大切にし、広く浅くから始め、相互体験を深めることはその年度状況によつて変えるくらいの柔軟な計画はいかがか。私のようにいつか生きてくる、生き続けるようになる。学生と未来を共に歩む教育学部ならではの素晴らしい宝として。

そして、私は今日もまた、「ヤッホー！」という挨拶から、さっちゃんの一日は始まる。



イオン交換が生み出す無眠の可能性

家政教育講座 教授 安川 あけみ

我々脊椎動物の歯や骨の主成分はカルシウム水酸アパタイト(以下アパタイト)という物質で、主にカルシウムとリン酸と水酸基から成っています。他のイオンと交換しやすく、生体アパタイトではカルシウムやリン酸の一部が各々微量のマグネシウムや炭酸と交換して、この微量成分は我々の生理作用やエネルギー代謝に必須です。鉱物にもアパタイトがあります。アパタイトの語源はギリシヤ語のアペイト(だます)で、鉱物アパタイトの微量のカルシウムが他の陽イオンに交換し、元々の無色から薄ピンク、薄緑、黄色、水色等に変化した石を、詐欺師が高価な宝石だと偽って売ったことから、この不名誉な名前が付いたと言われます。

アパタイトのイオン交換性の高さが招いた不幸に、富山県神通川下流域で発生したイタイイタイ病があります。上流の亜鉛精錬所からカドミウムが流され、下流域の住民の体内に入り、腎臓に蓄積して腎機能障害を、骨中のカルシウムと交換して骨の変形、骨折、痛みを起こしました。一方、良い利用例が虫歯予防のフッ素塗布です。歯のアパタイト表面の水酸基を安定なフッ化物と交換し、虫歯菌に侵されにくくしようとすることです。

我々の研究グループでは、鉛やカドミウムなど有害金属が溶けている廃液中に合成アパタイト粒子を浸漬することで、カルシウムとの交換で有害金属を除去する研究を行ってきました。また、カルシウムの一部がUVカット性をもつチタン、セリウム及び亜鉛に交換したアパタイト粒子を調製して

きました。繊維製品のUVカット加工の際、酸化チタンをそのまま用いると、光触媒でもあるため、基質である繊維を傷めてしまいます。チタン等を含有するアパタイト粒子を調製することで、環境や生体に安全で布地を傷めないUVカット物質が得られました。図は種々のアパタイト粒子の反射率で、UV領域の波長で反射率が低いほどUVを吸収する、つまりUVカット性があると言えます。カルシウムアパタイトは特にUVカット性を持ちませんが、セリウム含有アパタイトは長波長のUVを、チタン含有アパタイトはそれより短い波長のUVをよく吸収します。さらに、セリウムとチタンの両方を含有するアパタイトは、より広範囲のUVを吸収することがわかります。セリウムとチタンの含有率を変えれば、用途に応じて吸収強度を変えられるUVカット物質を調製できます。

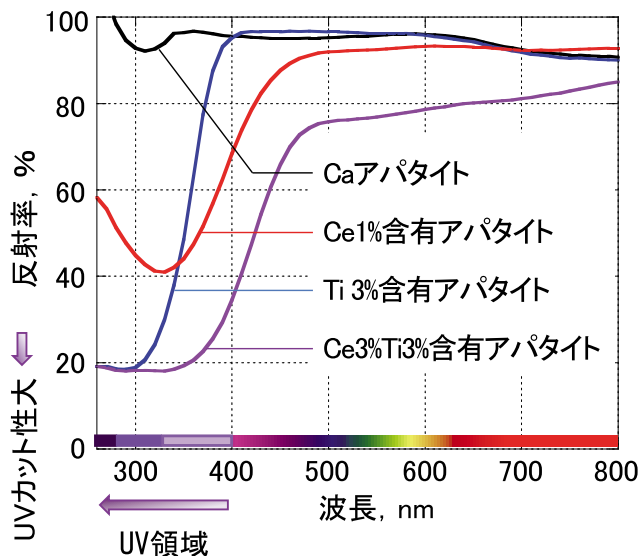


弘前大学教育学部附属中学校の現状

附属中学校 校長 傳法 公彦

弘前大学教育学部同窓会の皆さま、令和六年四月一日、附属中学校長に採用されました傳法公彦と申します。よろしくお願いいたします。

令和六年十月に開催されました教育学部同窓会・懇談会に初めて出席し、多くのことを学ばせていただきました。附属中学校及び弘前の勤務が初めてなことに加え、他大学を卒業した私にとって知らないことばかりでした。学びの機会を与えてくださったことに深く感謝申し上げます。



種々のアパタイト粒子のUVカット性

さて、本校は、中等普通教育、中学校教育の実証的研究、教育実習の実施、地域の教育機関に協力・寄与、の四点を目的としています。

① 「中等普通教育」

令和六年度は「変化の激しいことから社会を生き抜く力を身につけてほしい、自分の希望する進路に希望どおり進める確かな学力を身につけてほしい」を生徒の目指す姿としています。

② 「中学校教育の実証的研究」

現在学校教育に求められているのは「個別最適な学び」と「協働

的な学び」の実現で、これらを併せて「令和の日本型学校教育」と呼ばれています。教員は教育学部のご支援をいただきながら、組織的に指導法の研究に日々取り組んでいます。

③ 「教育実習の実施」

令和六年度の教育実習の概況は、実習期間が五日以上のものだけでも、教育学部三年次教育実習等が63人、教育学部四年次及び本校卒業生実習が42人、教育学部三年次保健実習20人、を実施しております。

④ 「地域の教育機関に協力・寄与」

前述した「中学校教育の実証的研究」の研究成果を地域の教育機関に役立ててもらえるよう努めています。また、教育機関からの要請に応じて研修会の講師を務めている教員がいます。令和六年度は「研究主任・ICT担当のための学校DX推進ガイド」を発刊いたしました。

附中生との最初の出会いは四月六日の新任式でした。生徒挨拶で「教育目標に掲げる気品という言葉は、見た目や話し方などの外に現れるものをイメージされるかもしれません。しかし、附中生における気品という言葉は態度・考えなど様々なものがあり、それぞれが解釈を広げることで、各々の根源からの気品を尊重しています。」と述べたことに驚きました。私は気品という言葉を生徒挨拶前半の「外に現れる」ものとして捉えていたのですが、生徒はさ

らに広く捉えていたからです。後から担当の先生に事前指導したのか尋ねたところ、ほとんど指導していないとのこと、また驚きました。本校がこれまで脈々と積み重ねてきた確かな歩みに新任校長として身が引き締まる思いをしたことを思い出します。

私は、未来を逞しく生き抜く



海を照らす太陽のように

青森市立油川小学校 教諭 中村 由惟
(教職実践専攻教科領域実践コース 令和6年修了)

フェリー埠頭を直進すると、右手に海が広がって見えます。海のない弘前で生まれ育った私にとって、ここはお気に入りの場所です。穏やかにキラキラ輝いている海、波が激しい海、どんよりと暗い海。海にはいろいろな表情があります。毎朝、そんな海を子どもたちと重ね、今日はどんな一日になるのだろうか、と考えながら通勤しています。

私は、この春教職大学院を修了し、小学校教員としてのスタートを切りました。初めて担任する子どもたちは、元気いっぱいの子生です。担任発表の時に私の名前が呼ばれ、どんな子どもたちなのだろうかとどきどきしながら、「よろしくお願ひします。」と言うと、子どもたちが歓声を上げて喜んでくれました。学級の子どもたちは、純朴でとてもかわいいです。毎朝、私が教室に着くと、子どもたちは急いで教室の前

生徒（「根っこ精神」をもった生徒）を育てるべく教職員一同、力を合わせて教育活動を進めたいと考えております。教育学部同窓会の皆さまにおかれましては、今後とも温かい目で本校を見守ってくださいますようお願い申し上げます。

に集まり、前日の放課後や家庭での出来事を一生懸命話してくれました。子どもたちは十人十色で、授業における支援、子どもたち同士の間関係づくりの支援などで悩むこともあり。その時は、教育学部や教職大学院での学びの中で得た引き出しを開け、いろいろな方法を試しています。たくさん



初任者研修公開授業

■既卒者■のための 教員採用試験対策講座 のご案内

既卒者を対象として、主に2次試験対策を実施します。積極的にご参加ください！お申し込み、お待ちしております！

日程：2025年7月28日(月)～8月1日(金)
(既卒者のための教員採用試験対策週間です)

①11:05～11:50 ②13:25～14:10
 ③14:20～15:50 ④16:00～17:30

対象者：弘前大学卒業生・修了生

内容：主に2次試験対策

①小論文の添削 ②自己PR ③個人面接・集団面接
 ④集団討論 ⑤模擬授業 ⑥場面指導

場所：弘前大学教育学部2階 教職支援室

担当：教職キャリア支援コーディネーター

山田 真寿美先生 (ky-sien5@hirosaki-u.ac.jp)
 葛西 裕幸先生 (hi-kasai@hirosaki-u.ac.jp)
 工藤 美代子先生 (miyo-kudoh345@hirosaki-u.ac.jp)
 佐藤 忠浩先生 (sato-chu3387@hirosaki-u.ac.jp)

申込：弘前大学教育学部教職支援室 0172-39-3423
 または、上記の各先生方のメールアドレスまで

・小論文添削希望者は、事前にメールに添付の形で送信ください。
 ・身近な講師にもお伝えください。
 ・様々なご要望に適宜対応いたします。

注目：上記期間以外でも指導いたします。ご連絡ください。

■主催：弘前大学教育学部教職支援室・就職支援委員会
 ■後援：弘前大学教育学部同窓会

の引き出しを持って現場に立つことができたのは、教育学部・教職大学院の先生方、並びに実習等でお世話になった先生方のおかげです。どうしても困った時には、あの先生ならこういう時はどうするかなど、今までお世話になった尊敬する先生方の姿を思い浮かべ、ヒントをいただいています。また、優しく頼もしい校長先生、教頭先生、教務主任の先生、学年主任の先生に相談すると、いつもあたたかい言葉が返ってきます。私は、たくさん素敵な先生方に恵まれて、今こうして働けていることに心から感謝しています。

輝く海は、太陽に照らされています。もう少しで教員一年目も終了ですが、いつでも学び続ける気持ちを忘れず、私も子どもたちにとって太陽のような存在になれるように頑張っていきたいと思えます。

令和六年度の同窓会の活動

教育学部との懇談会

昨年の十月十八日、学部との懇談会が開かれました。学部と同窓会から二十六名が出席し、教育学部の現状と取り組みについて高瀬学部長らから詳細な説明をいただき、その後、活発な質問や意見が交わされました。その一部をご紹介します。

◇入学者数は一六八人で、志願倍率は二・九倍。青森県出身者の割合は五一％でした。

◇「教員を目指す高校生のセミナー」を弘前市・八戸市・青森市で実施し、参加者の二・八％が実際に志願している。手応えを感じている。

◇卒業者の教員就職率は、昨年度を上回り過去最高の約七〇％で、県内が四六人、県外が六五人でした。近年の教員採用数の増加に加え、AO入試の導入により一定数の教員就職希望者を確保できた。

◇学校教育を中核的に担う教員の養成・研修の取り組みとして、次世代ウェルビーイングのための「大学の知の伝達・循環ルート」を構築し、総合的教職キャリア支援を推進している。

◇教員採用試験の繰り上がりに伴い、実習期間の調整が必要である。



令和5年度決算

Table with 4 columns: 項目, 令和5年度予算, 令和5年度決算, 備考. Rows include 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenditure).

Table with 4 columns: 項目, 令和5年度予算, 令和5年度決算, 備考. Rows include 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenditure).

Summary table with 3 columns: 収入, 支出, 残額. Values: 1,929,297, 1,455,246, 474,051.

残額474,051円は次年度へ繰り越します。

令和6年度予算(案)

Table with 4 columns: 項目, 令和5年度予算, 令和6年度予算, 備考. Rows include 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenditure).

Table with 4 columns: 項目, 令和5年度予算, 令和6年度予算, 備考. Rows include 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenditure).

Table listing members and their affiliations, organized by region (e.g., 黒石市, 平川市, etc.).

令和六年度 弘前大学教育学部同窓会 定時総会報告. 新型コロナウイルス感染症が五類となったこともあり、通常通りの総会が六月一日(土曜日)午後二時より弘前パークホテルにおいて開催されました。役員及び県内各支部より十六名の参加を得て、令和五年度の庶務・決算報告等、令和六年度の事業計画・予算等について話し合われ、無事終了しました。同窓会への入会者数は減少してはいるものの、ここ数年現状維持と言ったところですが、全学同窓会としての校愛会との兼ね合いもあり、教育学部同窓会としては今後の状況を見たとし、方針を決定するということにしてまいります。ご意見・ご要望等ありましたらお知らせください。最後に、総会後に行われた懇親会には、相馬正栄顧問をはじめ、新学部長の高瀬雅弘様、同じく新学部長の三上結美子様もご出席ください。和気藹々の中、今後同窓会のあり方等について情報交換を行いました。

令和6年度事業計画

- 1. 6年4月4日 弘前大学教育学部・学生ガイダンス(会長・事務局長出席)
2. 6年4月5日 弘前大学入学式
3. 6年4月5日 弘前大学教育学部・保護者説明会(会長・事務局長出席)
4. 6年4月6日 令和5年度会計監査会・評議員会・事務局合同会議
5. 6年5月24日 総会議案書案を会長と事務局で最終確認
6. 6年5月上旬 役員、各支部長・評議員、常任委員へ総会案内発送
7. 6年6月1日 令和6年度教育学部同窓会総会
8. 6年7月2日 教育学部長へ学部支援金を贈呈(会長・事務局出席)
9. 6年9月22日 教育学部との懇談会案内送付
10. 6年10月18日 教育学部懇談会開催
11. 6年10月下旬 3年次学生の3者面談(全体会へ会長出席)
12. 6年11月下旬 会報あすなろ46号の原稿依頼、12月中に回収、整理
13. 7年1月中旬 会報あすなろ46号の印刷依頼、1月下旬完成
14. 7年2月上旬 サンキュウ企画より各支部へ会報あすなろ46号を郵送
15. 7年3月下旬 弘前大学学位記授与式(会長出席予定)
16. 7年3月下旬 やまと印刷より弘前大学同窓会報を各支部へ郵送
※新入会員の礼状は振り込み次第発送。

令和5年度庶務報告

- 1. 5年4月5日 弘前大学入学式
2. 5年4月8日 令和4年度会計監査会・評議員会・事務局合同会議(10人出席)
3. 5年4月下旬 各支部の会員情報、役員、活動費の送金についての案内、報告
4. 5年6月3日 令和5年度教育学部同窓会総会(21人出席:学部長、事務長含む)
5. 5年6月27日 教育学部長へ学部支援金を贈呈(会長・事務局)
6. 5年8月3日 教育学部同窓会顧問齋藤善三氏ご逝去(家族葬)
7. 5年9月中旬 教育学部との懇談会案内送付
8. 5年9月20日 事務局会議開催
9. 5年10月20日 教育学部懇談会開催(20人出席)
10. 5年10月21日 3年次学生の3者面談(全体会へ会長出席)
11. 5年11月下旬 会報あすなろ45号の原稿依頼、12月中に回収、整理
12. 5年12月19日 吉田 豊 元学長、同窓会名誉顧問ご逝去
13. 5年12月25日 吉田 豊 元学長、同窓会名誉顧問のお通夜に葛西会長出席
14. 6年1月中旬 会報あすなろ45号の印刷依頼、1月下旬完成
15. 6年2月1日 サンキュウ企画より各支部へ会報あすなろ45号を郵送
16. 6年2月28日 弘前大学校友会事業に係る報告会(50周年記念会館:会長欠席)
17. 6年3月22日 弘前大学学位記授与式
18. 6年3月22日 教育学部卒業祝賀会(会長出席)
19. 6年3月下旬 やまと印刷より弘前大学同窓会報を各支部へ郵送

令和5年度特別基金報告

Table showing financial details for special funds, including 収入 (Income) and 支出 (Expenditure) sections with bank names like 青森銀行 and みちのく銀行.

残金は各銀行へ再度定期として預金する。

令和6年度役員

お知らせ 本会事務局長の福島成利氏が、総会直前の令和六年五月二十四日にご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表したいと思います。謹んで哀れに併い、常任委員のわたくお願いたします。
し小山内剛が事務局として活動しております。何分不慣れたためにご迷惑をおかけするところも多々あると存じますが、何卒よろしくお願いたします。また、基本的に連絡につきましてはメール(go.osanai@gmail.com)にてお願いたします。

同窓会の情報や会報のバックナンバーは、弘前大学同窓会HP→教育学部同窓会HPから。

https://www.hirosaki-u.ac.jp/information/ alumni.html

弘前大学同窓会

検索

